第245回（3月）

「ＤＶＤ―市場活性化の可能性を探る」

株式会社東芝 ＤＶＤ事業部マーケティング部長 遠藤慎一氏

今回はＤＶＤのデモを行ない、ある対象を前後左右、好きな角度から見ることができる映像や、数か国語の音声とテロップが入ったマルチ画面映像をもとに検討をすすめた。ＤＶＤは、一般的にはDigital Video Discと表現されているが、本質的にはDigital Versatile Discなのだ。ＬＰレコード、カセットテープ、ビデオテープ、ＬＤ、ＣＤ、ＭＤ、ＣＤ-Ｒｏｍを１つに統合した多目的なＤＩＳＣであって、決してＶＩＤＥＯのみではない。

多目的ＤＩＳＣの出現は、レコード・出版・放送・ビデオなどの業界に大きなインパクトを与え、ＭＰＥＧのような圧縮技術、ＩＳＤＮ・インターネット技術、ＡＶ機器のデジタル化技術を加速させた。圧縮技術の進歩で１チャネルあたりのコストが安くなり、経済性が高まった。映画の場合、英語と日本語・韓国語、中国語版などを１枚に納めることができ、封切前に海賊版のＤＶＤが出回る恐れが出てきたため、著作権保護のためのコピーガードの方式を定めた。加えて、封切前のその地域での発売を禁止する地域コードができた。ハード、ソフト、メディアの３領域をつなぐ技術として、ハード／ソフト間ではコンピュータ応用技術が、ソフト／メディア間ではＭＰＥＧ・ドルビーＡＣ-３などのデジタル圧縮技術が、メディア／ハード間ではＬＳＩ・レーザー技術がある。加えて、物性フォーマット、ファイルフォーマット、ビデオフォーマット、オーディオフォーマット、ＲＡＭフォーマットがそれぞれ規格化され、ＤＩＳＣの構造が世界共通になり、パソコンでＤＶＤ-Ｄｉｓｃの内容を見ることが可能になった。これによって一気に応用範囲が広まった。ＶＩＤＥＯ、ＲＯＭ、ＡＵＤＩＯを統合した記録可能なＤＶＤ-ＲＡＭ及びＤＶＤ-Ｒｅｃｏｒｄｅｒが売り出される予定だ。将来は、再生専用のものが超高密度化され書換型に発展する。今後はプロモーション用、サービス用のものが増える。

ＶＩＤＥＯ、ＡＵＤＩＯ、ＲＯＭの3つを一緒にしたＤＶＤ-Ｅｘｔｒａという領域が今後国際的に期待される。再生専用DVDプレーヤーは、97年に60万台、2000年に160万台、2003年に250万台、2005年に280万台と予想される。書換型を含めると、98年に275万台、2000年に1180万台というようにＲＯＭ関連が伸びる。98～99年コストが急激に下がり、今のＣＤ-Ｒｏｍ並の価格のドライブ装置が発売されるだろう。